

「情報通信利用者動向の調査」 (Cyber Life Observations : CLO)

【第 9回 調査の結果】

2001年 5月 10日

NRI 野村総合研究所

< 目次 >

1. 今回の調査の視点と特徴	2
2. アンケートの概要	2
3. 調査結果の要約	3
1) 加入電話	3
2) 携帯電話・PHS	3
3) 携帯電話単体でのインターネット利用	4
4) パソコン	4
5) インターネット	5
6) エレクトロニック・コマース	6
7) 情報セキュリティ	6
8) BSデジタル放送	7
9) 金融サービス	7
10) 情報化意識の変化	7
図表 1～ 21	8～ 28

1. 今回の調査の視点と特徴

(1) 過去8回 (1997年3月より半年おき) の調査結果との対比

(2) ホット 이슈の追加

- ・マイラインの認知度や申し込み状況
- ・ブロードバンドの利用状況と今後の利用意向
- ・情報セキュリティへの対応 など

2. アンケートの概要

	第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査	第5回調査	第6回調査	第7回調査	第8回調査	第9回調査
対象	全国15～59歳男女個人								
サンプリング	層化二段無作為抽出法								
調査方式	訪問留置方式								
抽出サンプル数(人)	4300	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000
回答数(人)	3067	1409	1406	1431	1430	1410	1410	1402	1410
回答率(%)	71.3	70.5	70.3	71.6	71.5	70.5	70.5	70.1	70.5
実施時期	1997年3月上旬	1997年9月上旬	1998年3月上旬	1998年9月上旬	1999年3月上旬	1999年10月上旬	2000年3月上旬	2000年9月上旬	2001年3月上旬

(単位:人)		1997年3月	1997年9月	1998年3月	1998年9月	1999年3月	1999年10月	2000年3月	2000年9月	2001年3月
男性	10代	153	65	68	73	63	72	65	82	72
	20代	284	140	142	140	138	137	115	144	137
	30代	304	146	165	164	166	169	168	158	169
	40代	402	175	168	181	186	183	158	169	180
	50代	327	183	183	185	178	146	163	145	145
女性	10代	149	53	77	49	55	70	59	73	70
	20代	363	141	124	132	144	152	137	149	146
	30代	374	156	148	150	176	157	193	158	169
	40代	374	175	174	180	157	175	164	173	171
	50代	326	172	157	177	167	149	188	151	151

(注) 図表にサンプル数が記載されていない場合には上表を参照

なお、性・年齢不明のサンプルが、1997年3月調査に11サンプル、1997年9月調査に3サンプル含まれている

3.調査結果の要約

1)加入電話

- 電話会社からのDMやちらし(44.0%)、電話会社 代理店からの電話(41.0%)、テレビや新聞でのコマーシャル(30.6%)などで、マイライン(優先接続制度)の申し込みの勧誘を受けた人の割合が高い。一方、まだ勧誘を受けた覚えがない人も、22.1%いる。
- 申し込みの決め手として、「家族 親戚、友人の付き合い(32.0%)」を挙げる人の割合が最も高い。次いで、「電話会社 代理店からの電話(15.2%)」「電話会社からの訪問(12.1%)」などである。(図表1参照)

2)携帯電話・PHS

- 携帯電話・PHSを個人で利用している人の割合(個人利用率)は、1年間で9ポイント増加し71.1%に達した。10代男性(23.8ポイント増)での増加が顕著である。この他、個人利用率の低かった、30代女性(10.3ポイント増)、40代女性(9.9ポイント増)での増加が見られる。また、最も個人利用率の低い50代女性も40.4%となった。(図表2参照)
- 月々の携帯電話料金をこづかい等から支払っている人では、こづかい等に占める携帯電話料金支出の割合が、1年間で3.5ポイント増加し、17.2%となった。10代では、こづかい等の31.5%が携帯電話の利用にあてられている。(図表3参照)
- 携帯電話・PHSを利用している人および利用意向を持つ人のうち、IMT-2000(次世代携帯電話)に「非常に興味がある」「多少興味がある」人の割合は、半年間でやや低下し、それぞれ10.6%(0.2ポイント減)、29.6%(8.0ポイント減)になった。年代が若い人ほど関心が高い傾向は引き続き見られる。
- IMT-2000に関して、「通話品質の向上(65.3%)」「データ通信速度の向上(45.7%)」「映像配信サービス(39.2%)」「音楽配信サービス(36.5%)」などへの期待が強い。「非常に興味のある」人では、「通話品質の向上(67.9%)」と同程度に「データ通信速度の向上(68.9%)」に対する期待が強い。
- また、「通話品質の向上」に期待する人の割合は、年代が増すごとに増加し、「映像配信サービス」や「音楽配信サービス」に期待する人の割合は、逆に低下する。(図表4参照)

3) 携帯電話単体でのインターネット利用

- 生活者の20.6%が、iモード、EZ、J-SKY等のインターネットサービスを使える携帯電話端末を利用し、日頃インターネットに接続して電子メールやWebコンテンツの閲覧を行っている。
- 若い年代ほど、携帯電話単体によるインターネットの利用が進んでいる。10代男性(47.2%)、20代男性(46.0%)では半数近くが携帯電話単体でインターネットを利用している。一方、携帯電話単体でインターネットを利用することができる端末を持ちながら、インターネットを利用していない人の割合は16.9%で、性・年代による違いはあまりみられない。(図表5参照)
- 携帯電話単体でインターネットを利用している人のうち、毎日インターネットに接続している人の割合は、半年間で5.6ポイント増加し、36.0%になった。また、「多くは電子メールで、時々Webコンテンツの閲覧を利用」する人の割合が10.2ポイントと大きく増加し、52.2%となった。(図表6参照)
- 携帯電話単体で閲覧・利用するWebコンテンツとしては、「着メロ(71.2%)」や「画像のダウンロード(46.4%)」が多いものの、年代が増すにつれ、それらの利用割合が低下する。一方、年代が増すごとに利用者の割合が高まる傾向が見られるコンテンツとしては、「ニュース(30.9%)」、「天気予報(29.2%)」、「レジャー情報(18.5%)」などが挙げられる。(図表7参照)
- 携帯電話単体でWebコンテンツを閲覧している人のうち、有料Webコンテンツを利用している人の割合は56.7%で、半年間で10ポイント増加した。月々の利用料金は平均430円で若干の低下が見られる。コンテンツに月々600円以上の支払いをしている人は、半年間で15.1ポイント減少し18.2%となった。月々の支払い金額が400円未満の人(53.7%)が半数を占める。(図表8参照)

4) パソコン

- パソコンが家において自分で使っている人の割合(個人利用率)は、38.1%となった。この比率は、3年間で2.7倍になっている。この1年間で、20代男性(9.4ポイント増)、30代男性(13.6ポイント増)、40代男性(13.8ポイント増)での個人利用率の増加が顕著であり、それぞれ、51.1%、50.9%、51.1%と、いずれも割を超えた。(図表9参照)
- パソコンの使用経験がなく、「キーボードをほとんど使えない」人の割合は20.4%に減った。1年間で5.6ポイントの低下である。特に50代では、1年間に12.5ポイントと大幅に低下し、35.1%になった。(図表10参照)

5) インターネット

- 自宅のパソコンでインターネットを利用している人の割合は、この1年で1.1ポイント増加し、27.8%となった。利用時間は月13時間程度でほぼ一定である。利用している回線は、加入電話回線(ダイヤルアップ)57.4%、ISDN回線27.3%、CATVインターネット7.4%などである。(図表11参照)
- 自宅のパソコンでインターネットを利用している人および今後利用したい人のうち、69.5%が常時接続の定額高速回線(ブロードバンド)の利用を考えている。速度的に見てブロードバンドとは必ずしも呼べないものの、フレッツ・ISDNの利用意向が最も高く28.5%である。次いで、CATVインターネット(20.3%)、ADSL(9.4%)などである。また、サービス開始後6ヶ月以内に利用したい人の割合は20.0%となっている。(図表12参照)
- 関心の高いサービスとしては、「映像配信サービス(19.1%)」、「音楽配信サービス(14.0%)」、「テレビ電話サービス(9.1%)」などが挙げられている。月々の支払い金額はIS P(インターネット・サービス・プロバイダ)料金を含め、平均千7百円を希望している。(図表13参照)
- 「自宅のパソコンでのインターネット利用」に、「職場・学校でインターネットを利用」している人を加えると、その割合は生活者の40.2%になる。さらに、「携帯電話・PHSのみ」でのインターネット利用者7.1%を加えると、インターネットを利用している人の割合は47.3%になる。
- インターネット利用者の割合が64.8%と最も高い10代では、携帯電話・PHSのみでの利用が全ての年代中最も高く18.3%である。次いでインターネット利用者の割合が高い20代(61.5%)では、携帯電話・PHSのみでの利用は11.7%と最も低く、職場・学校のみ(17.0%)、自宅のみ(16.6%)、自宅と職場・学校の両方(16.3%)が同程度で高くなっている。また30代(63.0%)では、「自宅と職場の両方」で利用している人の割合が高い。
- 利用手段で見ると、20代では、パソコンと携帯電話・PHSの両方でインターネットを利用している人の割合が28.6%と他の年代に比べて高く、携帯電話・PHSのみ(11.7%)、パソコンのみ(12.2%)を上回っている。また、30代、40代ではパソコンのみ(それぞれ29.6%、32.5%)を利用している人の割合が高いことが特徴的である。(図表14参照)

6) エレクトロニック・コマース

- エレクトロニック・コマース(EC :電子商取引)を利用した経験のある人の割合は、1年間で倍増し、9.4%になった。
- 1年間の購入金額は、平均6.2万円とやや増加した。年間5千円未満しか買い物をしない人の割合は18.9%と半年間で3.4ポイント減少する一方で、年間10万円以上の買い物をする人の割合は、半年間で2.6ポイント増加し、15.2% となった。(図表15参照)

7) 情報セキュリティ

- 自宅のパソコンおよび携帯電話でインターネットを利用している人の56.1%が、インターネットのサービス利用時に実名を使うことに消極的である。男性に比べ、女性の方がこの傾向が強い。
- また、自宅のパソコンでインターネットを利用している人に限れば、インターネット接続時間が10時間未満の人に比べ、10時間以上利用している人の方が、インターネット利用時での実名利用に消極的である。(図表16参照)
- 「知らない会社・個人から電子メールが送られた経験を持つ」人の割合は、自宅のパソコンおよび携帯電話・PHSでインターネットを利用している人の46.5%と半数近くに及ぶ。このうち、66.9%の人がこのような電子メールを迷惑と感じている。また、このような電子メールを「最後まで読む」人の割合は22.4%である。(図表17参照)
- 自宅のパソコンでインターネットを利用している人のうち、電子メールアドレス(携帯電話の電子メールアドレス除く)を1つだけ利用している人の割合は66.8%。複数の電子メールアドレスを利用している人の割合は23.8%(2つが15.6%、3つ以上が8.2%)である。インターネット利用時間が長い人ほど電子メールアドレスを複数利用している。複数の電子メールアドレスを利用している人の52.7%が、「仕事用とプライベート用で使い分け」をその理由として挙げている。(図表18参照)

8)BSデジタル放送

- 自宅でBSデジタル放送を視聴できる人の割合は5.2%、今後視聴したい人の割合は13.0%である。
- この割合は、世帯年収が高い世帯の人ほど高まる傾向にあり、世帯年収1000万円以上では、現在視聴できる人の割合は、9.4%、今後視聴したい人の割合は15.2%となっている。
- 「毎日の生活にインターネットは欠かせない」と思っている人ほど、視聴できる(11.4%)や視聴したい(15.9%)の割合が高い傾向にある。(図表19参照)

9)金融サービス

- 銀行取引や金融商品の売買にインターネットを利用した経験のある人は、増加の方向である。銀行取引でパソコンを利用した人は1.0ポイント増の1.8%、携帯電話を利用した人は0.6ポイント増の1.2%である。また、金融商品の売買の経験のある人のうち、金融商品の売買に、パソコンを利用した人は0.4ポイント増の7.8%、携帯電話を利用した人は0.5ポイント増の0.5%である。
- 一方、利用意向のある人の割合は順調に増加し、銀行取引でパソコンを利用したい人は5.1ポイント増の19.8%、携帯電話を利用したい人は4.7ポイント増の15.2%である。また、生活者のうち金融商品の売買にパソコンを利用したい人は、3.2ポイント増の23.3%、携帯電話を利用したい人は2.4ポイント増の8.7%である。
- 金融商品の売買に比べ、銀行取引での利用意向のある人の増加が顕著である。また、金融商品の売買では、パソコンでの利用意向の割合が、携帯電話のそれを大きく上回っている。(図表20参照)

10)情報化意識の変化

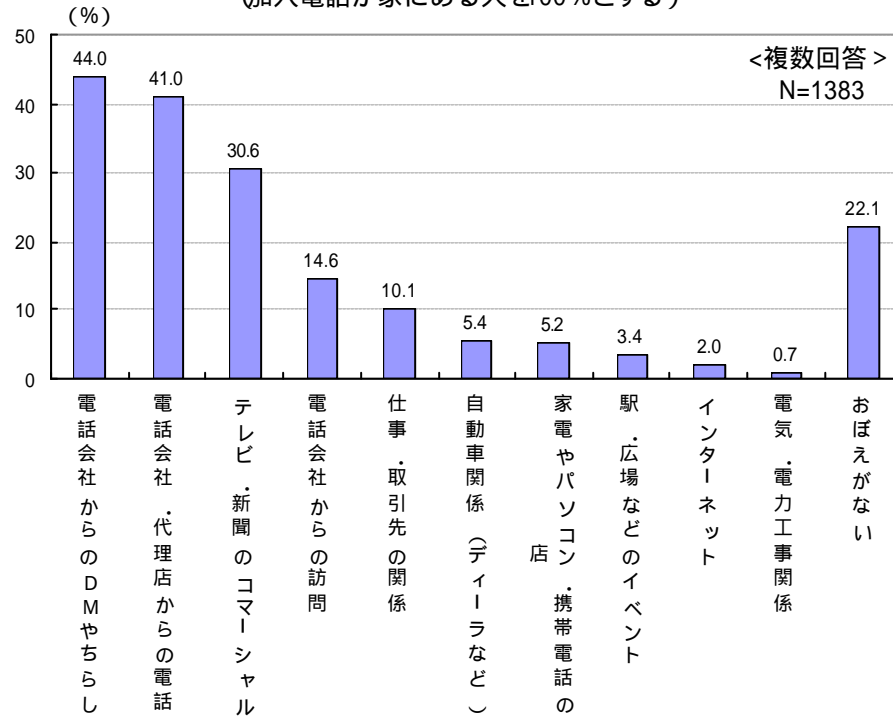
- 情報化の進展により、「生活が便利になる」と考えている人の割合は、年代を問わず、4年間で増加した。一方「つきあいやコミュニケーションが活発になる」と考えている人の割合は、10代、20代で増加したものの、30代以降では低下している。(図表21参照)

【図表1】マイライン(優先接続制度)の登録勧誘方法として、認知度が高いのは「DMやちらし」「電話」「TV・新聞のCM」などである。しかし申し込みをした約34%の人についてみると、決め手となった要因で最も多いのは、「家族・親戚、友人の付き合い」である。

- ・マイラインのセールスについては、22.1%の人が「おぼえがない」と回答している。
- ・マイラインの申し込みをした人は、加入電話が家にある人の33.6%である(本調査は個人を対象としており、世帯としてのマイライン申し込み率とは必ずしも一致していない)。

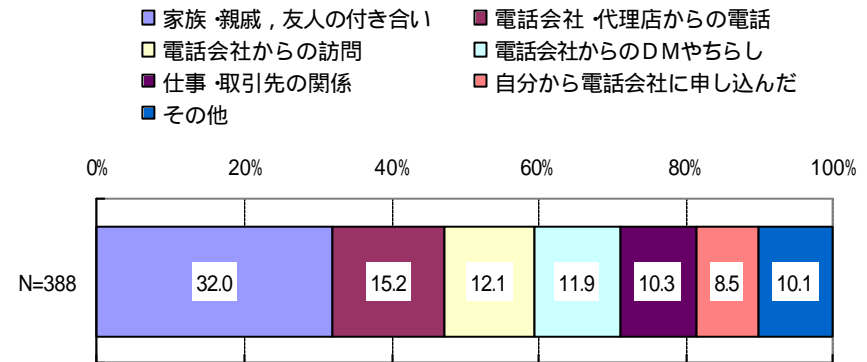
【マイラインセールス活動の認知度】

(加入電話が家にある人を100%とする)



【マイライン申し込みの決め手となった勧誘等】

(マイラインを申し込んだ人を100%とする)



注：「その他」は、家電やパソコン・携帯電話の店、自動車関係、などである。また無回答を除いて集計した。

Q5.3)どこからの勧誘やDMで申し込みを決めましたか。(〇はひとつ)

Q3. あなたは電話会社などからマイラインの登録を勧誘されたり、DMが送られてきたことがありましたか。おぼえのあるものをすべてお知らせください。(〇はいいくつでも)

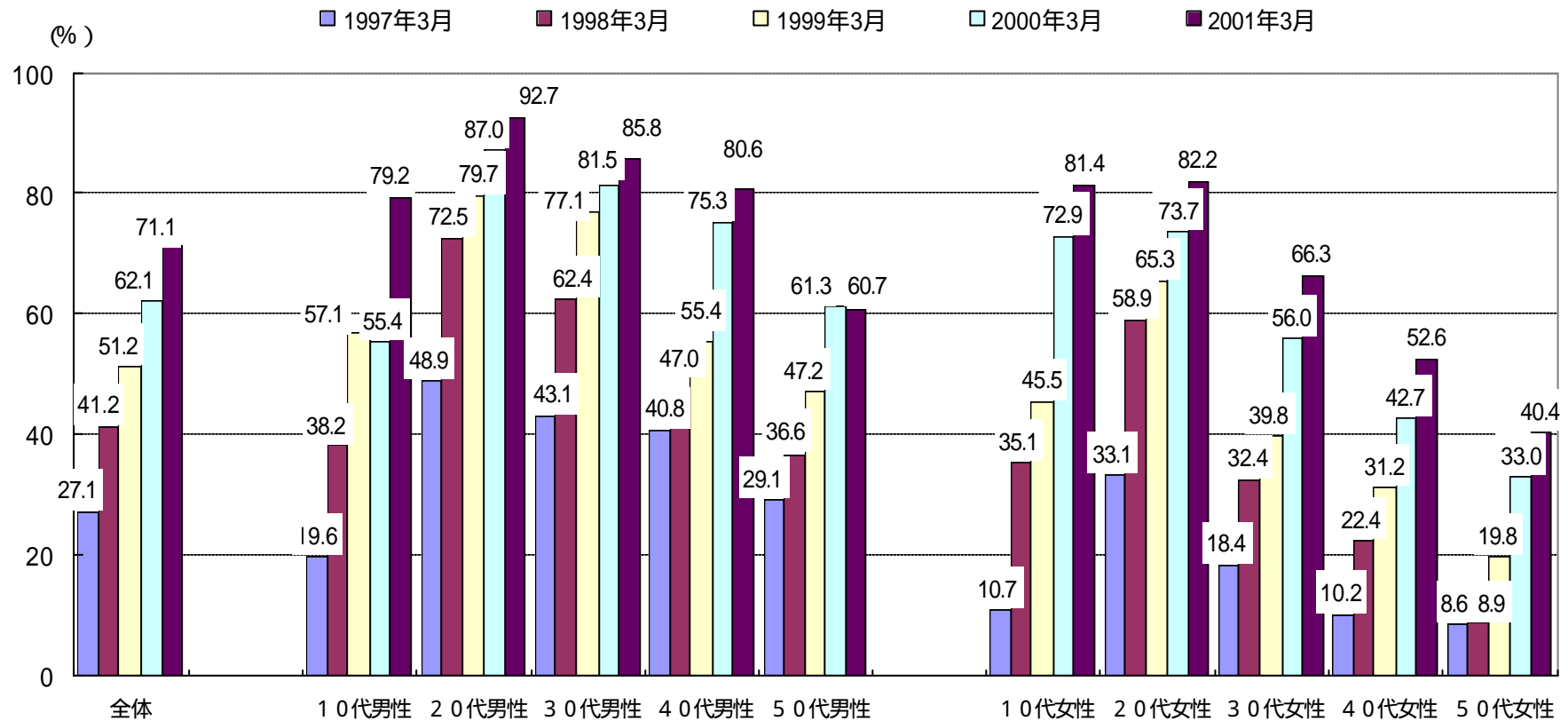
(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

2001年3月 野村総合研究所

【図表2】 携帯電話・PHSの個人利用率は、1年間で9ポイント増加し、生活者の7割を超えた
10代男性で急速に増加したほか、女性の伸びが顕著である

- 携帯電話・PHSを個人で利用している人の割合（個人利用率）は、1年間で9ポイント増加し71.1%に達した。最も個人利用率が高い層は20代の男性であり、92.7%となっている。
- 10代男性での増加（23.8ポイント増）が顕著である。この他、個人利用率の低かった、30代女性（10.3ポイント増）、40代女性（9.9ポイント増）での増加が見られる。また、最も個人利用率の低い50代女性も40.4%となった。

【性・年齢別 携帯電話・PHS個人利用率の推移】

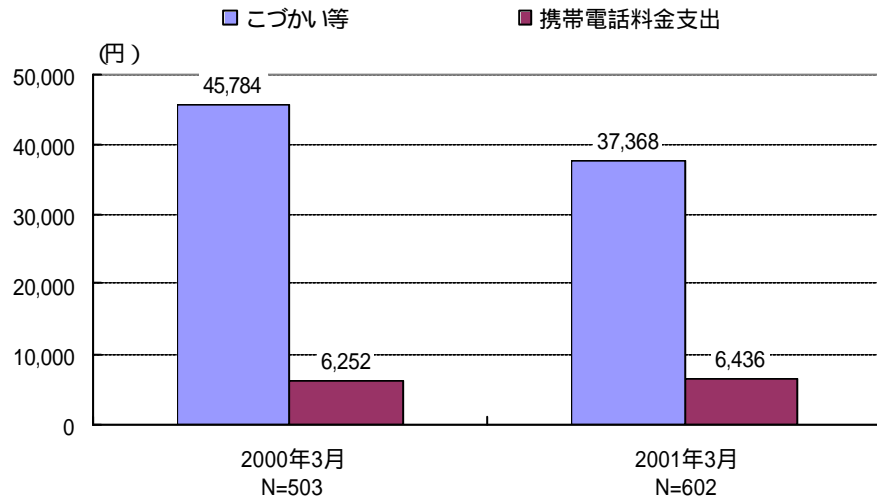


Q6 あなたは、携帯電話（自動車電話、PHSを含む）を利用していますか。
（勤務先から渡されて、自宅でも使っているものも含まれます。）

【図表3】 月々のこづかい等に占める携帯電話料金支出の割合は17.2%
10代ではこづかい等の3分の1程度が携帯電話の利用にあてられている

- 月々のこづかい等は、1年間で、4万5千円から3万7千円に低下しているものの、携帯電話料金支出は6千3百円から6千4百円とほぼ横ばい。
- 月々のこづかい等に占める携帯電話料金支出の割合は1年間で13.7%から17.2%と3.5ポイント増加。10代~30代でこの割合が増加し、それぞれ、31.5%、20.5%、17.4%となった。

【月々のこづかい等と携帯電話料金支出の推移】
(こづかい等から携帯電話料金を支払っている人を100%とする)

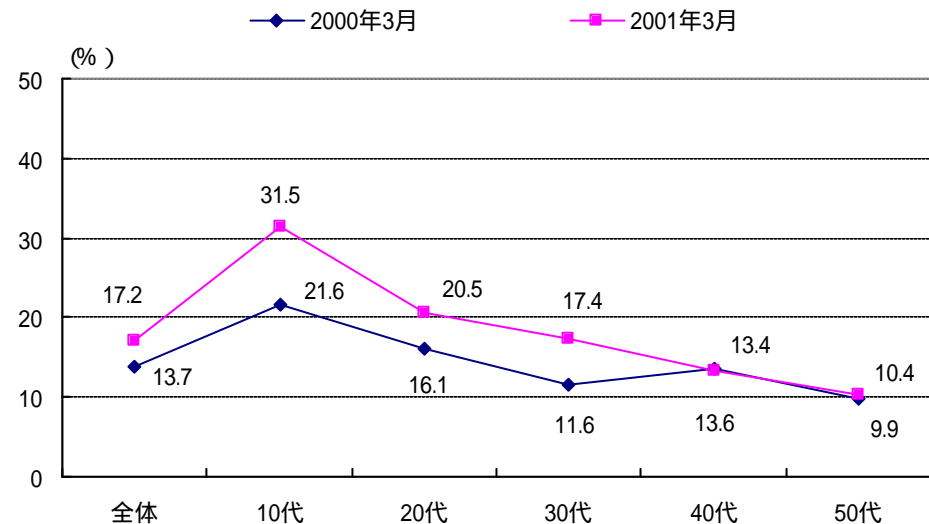


注1：携帯電話支出は基本料と通話料の合計金額

注2：ここでの携帯電話料金は、こづかい等から支出している部分のみである

Q32 .あなたは、月々こづかいから携帯電話料金をいくら位支払っていますか
F10. 1ヶ月間に、家計とは別に、あなたご自身のために自由に使うことができるお金
(こづかい等)はどの程度ですか。(はひとつ)

【年代別 こづかい等に占める携帯電話料金支出の割合の推移】
(こづかい等から携帯電話料金を支払っている人を100%とする)



注 2000年3月：

全体 N=503、10代 N=46、20代 N=151、30代 N=139、40代 N=87、50代 N=80

2001年3月：

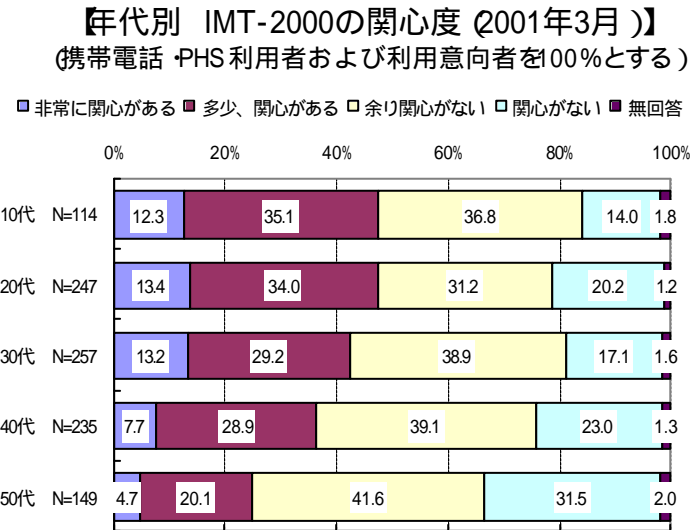
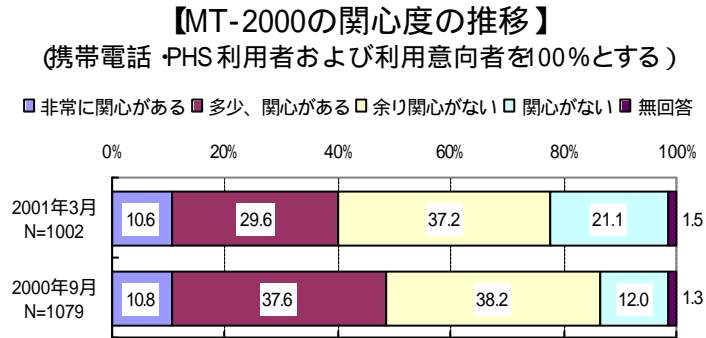
全体 N=602、10代 N=66、20代 N=181、30代 N=139、40代 N=129、50代 N=87

(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

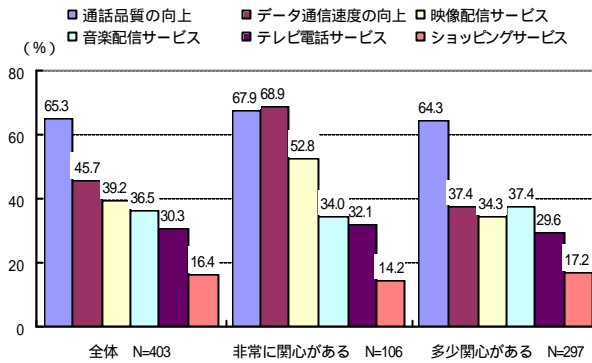
2000年3月~2001年3月 野村総合研究所

【図表4】 IMT-2000(次世代携帯電話)に「通話品質の向上」を期待する人の割合が最も高い
 また、IMT-2000に関心の高い人ほど、「データ通信速度の向上」に期待が高く
 「映像配信サービス」「音楽配信サービス」への期待は若年層ほど高い

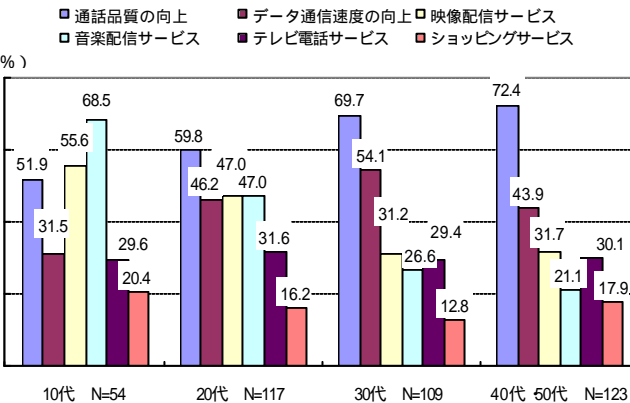
- IMT-2000(次世代携帯電話)への関心は、半年間でやや低下したが、引き続き若年層ほど関心が高い傾向が見られる。



【関心の強さ別 IMT-2000に期待するサービス】
 (IMT-2000に関心のある人を100%とする)



【年代別 IMT-2000に期待するサービス】
 (IMT-2000に関心のある人を100%とする)



Q11. 2001年5月から「新しい携帯電話サービス(IMT-2000)」が開始される予定です。このサービスの登場により、携帯電話の通話品質が向上し、データ通信速度が大幅にアップします。あなたはこの新しいサービスに、どの程度関心がありますか。(はひとつ)

Q11.SQ1. 新しいサービスでは、以下のことが可能になります。あなたはの中で、どれに興味がありますか。(はいいくつでも)

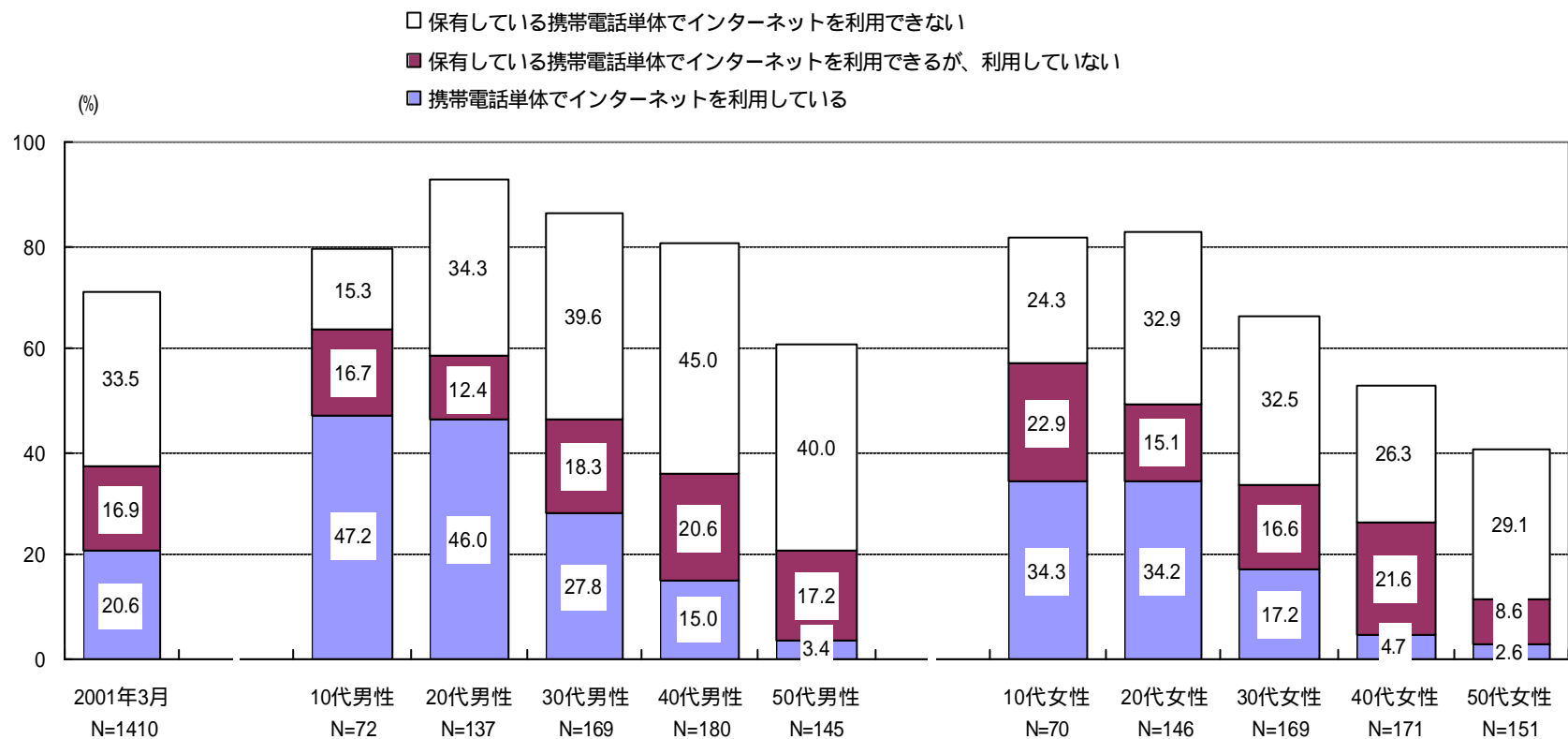
(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

2000年9月～2001年3月 野村総合研究所

【図表5】生活者の2割が、携帯電話単体で日頃インターネットを利用
若年層ほど利用している人の割合が高く、10代・20代男性では半数近くに及ぶ

- 携帯電話単体でインターネットを利用できる端末を持ちながら、インターネットを利用していない人は、生活者の16.9%。この割合は、性・年代による違いはあまりみられない。

【性・年代別 携帯電話単体でのインターネット利用】



Q7SQ1 .NTTドコモグループをご利用の方にお尋ねします。その携帯電話はどの機種ですか。
Q7SQ3. お持ちの携帯電話でEZアクセス、EZweb、J-SKYウェブの機能を利用できますか。
Q11. あなたは、携帯電話単体 (iモード、EZアクセス、EZweb、J-SKYウェブ) でインターネットを利用していますか。

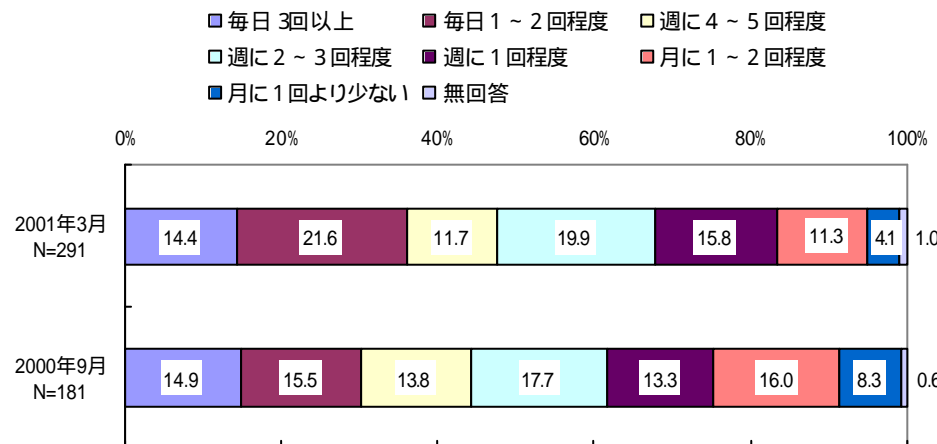
(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

2001年3月 野村総合研究所

【図表 6】 携帯電話単体で、毎日インターネットに接続する人の割合は、3分の1を超えており、半年で5.6ポイント増加。Webコンテンツの閲覧利用が増える傾向にある

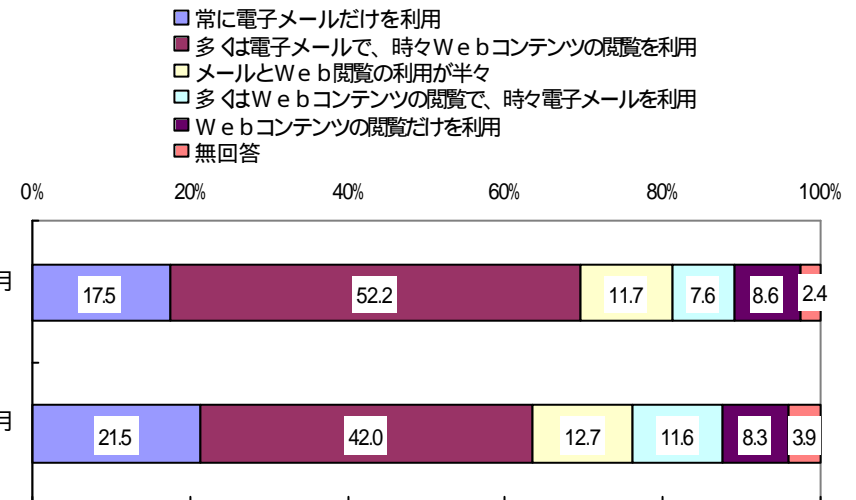
- 多くは電子メールで、時々Webコンテンツの閲覧を利用」している人の割合が、半年間で10.2ポイント増加し、52.2%と半数を超えた。

【携帯電話単体でのインターネットの利用頻度】
(携帯電話単体でインターネット利用している人を100%とする)



Q9.SQ2. 携帯電話単体で、どれくらいインターネットを利用されていますか。(はひとつ)

【携帯電話単体でのインターネットの利用目的】
(携帯電話単体でインターネット利用している人を100%とする)



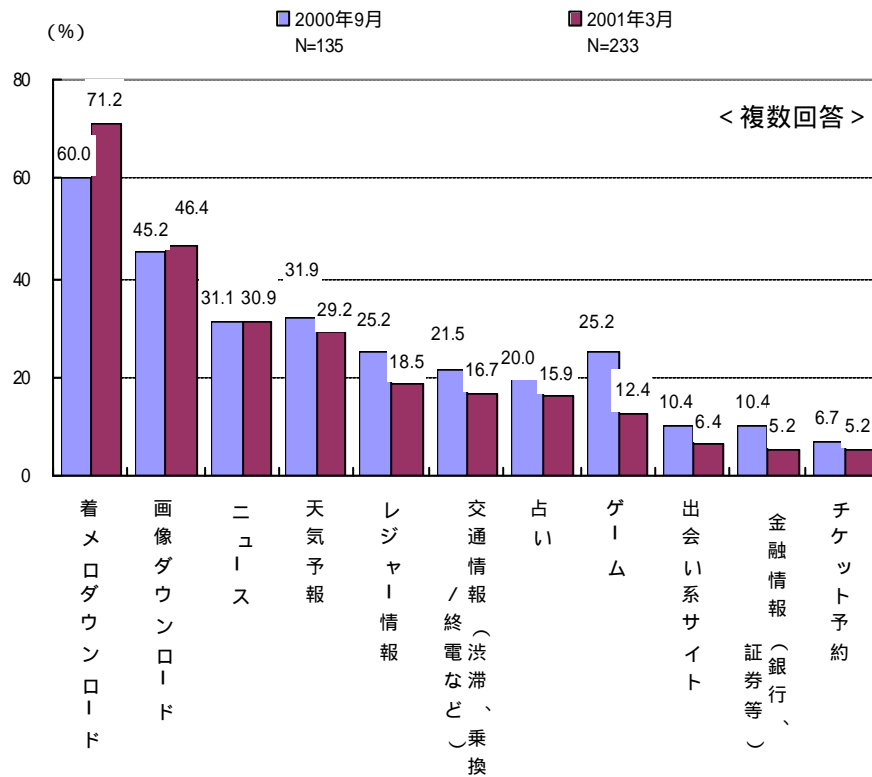
Q9.SQ3. 電子メールとWebコンテンツの閲覧(情報検索など)はどのような利用割合になっていますか。最もあなたの利用の仕方に近いものをお答えください。(はひとつ)

(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート
2000年9月~2001年3月 野村総合研究所

(図表 7) 携帯電話単体で閲覧するWebコンテンツとして、「着メロ」や「画像のダウンロード」を利用する人が多いが、年代が高まるほど、その割合は低下
一方、「ニュース」「天気予報」「レジャー情報」は年代が高まるほど、割合が増加

【携帯電話単体で閲覧するWebコンテンツの種類】

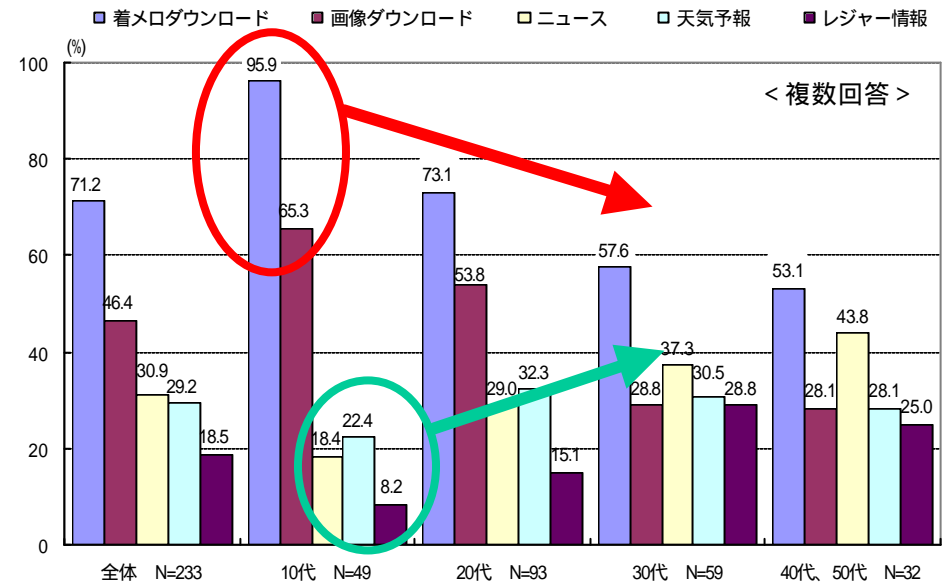
(携帯電話単体でWebコンテンツを閲覧している人を100%とする)



Q11SQ4. どのようなコンテンツを利用していますか。

【年代別 携帯電話単体で閲覧するWebコンテンツの種類】

(携帯電話単体でWebコンテンツを閲覧している人を100%とする)



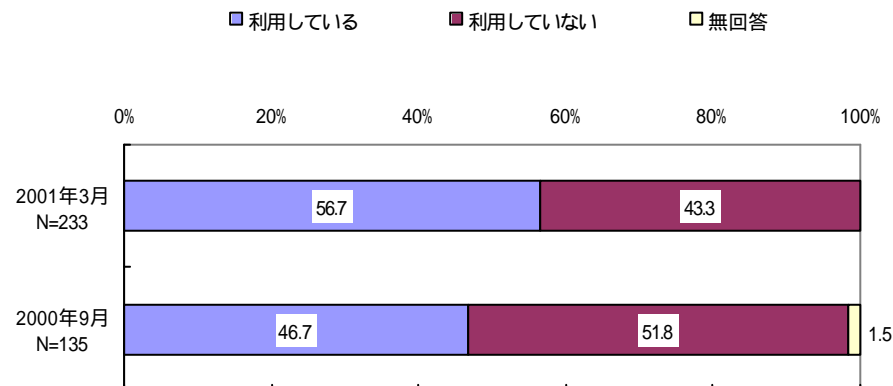
(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート
2000年9月～2001年3月 野村総合研究所

(図表 8) 携帯電話単体でWebコンテンツを利用している人のうち、有料Webコンテンツを利用している人の割合は56.7%であり、半年間で10ポイントの増加
 月々の利用料金は平均430円で、若干低下

- 有料コンテンツ利用者の利用料金は、「400円未満」の人の割合が53.7%と、半数を占める。また、半年間で、「600円以上」の人の割合が大きく低下し18.2%となった。

【携帯電話単体での有料Webコンテンツの利用の有無】

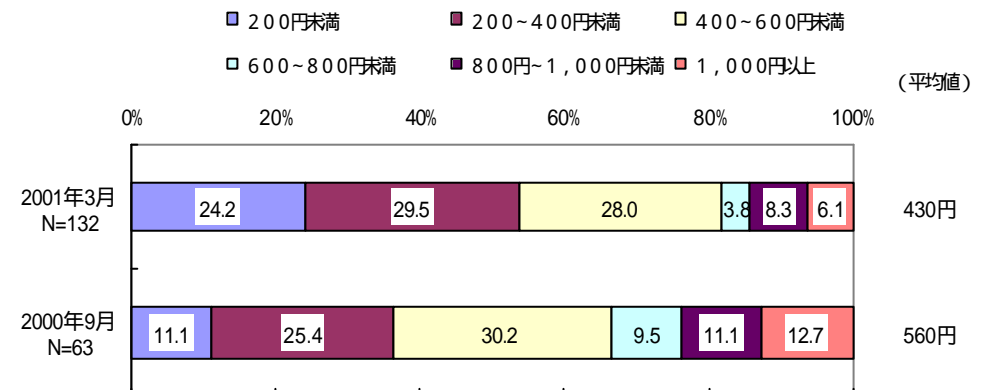
(携帯電話単体でWebコンテンツ閲覧をしている人を00%とする)



Q11SQ 6 .あなたは、有料のコンテンツを利用していますか。

【携帯電話単体での有料Webコンテンツの利用料金の分布】

(携帯電話単体で有料Webコンテンツを閲覧している人を00%とする)



Q11SQ 7 .有料のコンテンツを利用している方にお伺いします。
 1ヵ月あたりいくらくらいコンテンツに支払っていますか。

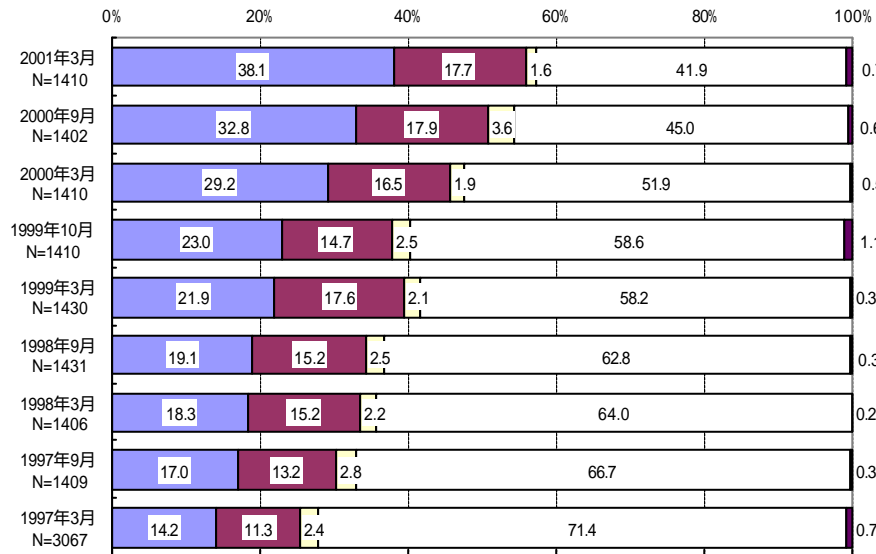
(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート
 2000年9月～2001年3月 野村総合研究所

(図表 9) 自宅でのパソコンの個人利用率は加速ぎみであり、半年間で5.3ポイント増加して38.1%となった

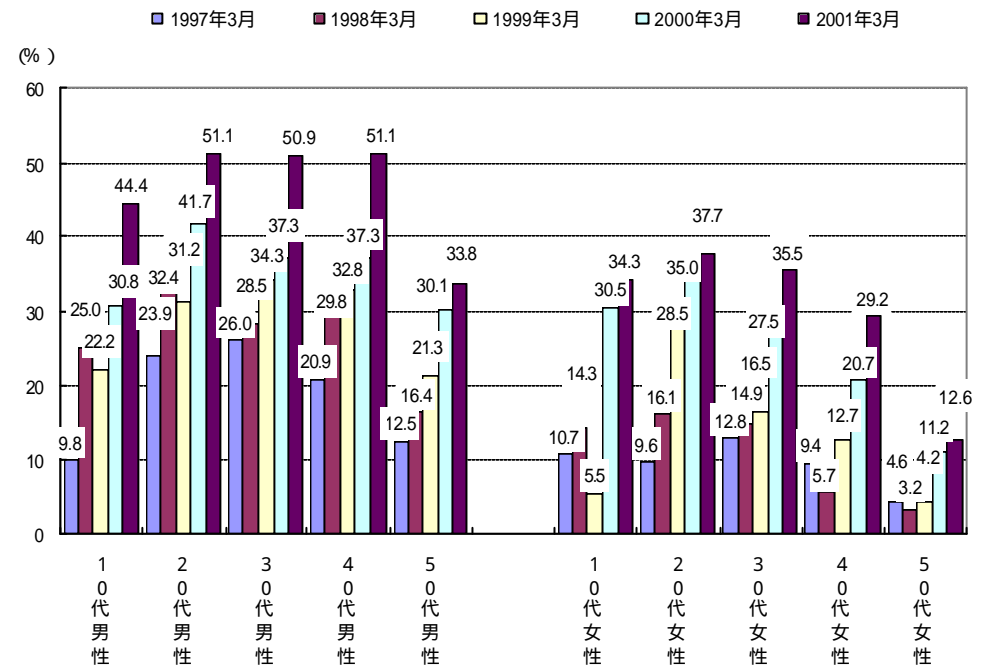
- この半年間で、20代～40代男性での個人利用率の増加が顕著であり、いずれも5割を超えた。
- 女性の個人利用率も伸びているが、男女差は若干拡大傾向にある。

【家庭におけるパソコンの有無と利用者】

■ 家あって自分が使っている ■ 家にあるが自分は使わない □ 家にあるが誰も使わない □ 家がない ■ 無回答



【性・年代別 パソコン個人利用率】



Q26 .あなたご自身は、家でパソコンを使っていますか。(は一つ)

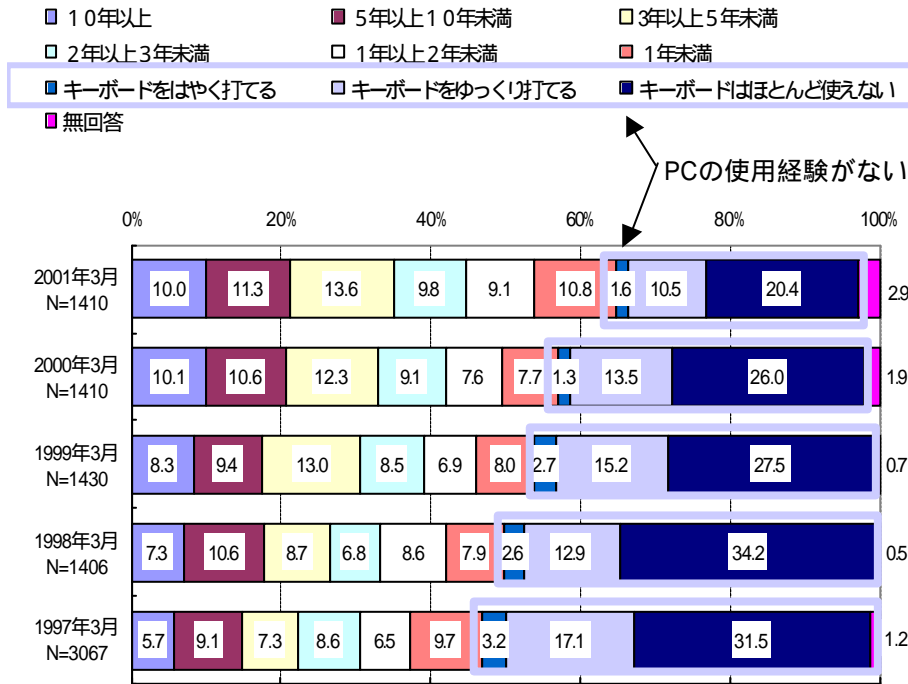
(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

1997年3月～2001年3月 野村総合研究所

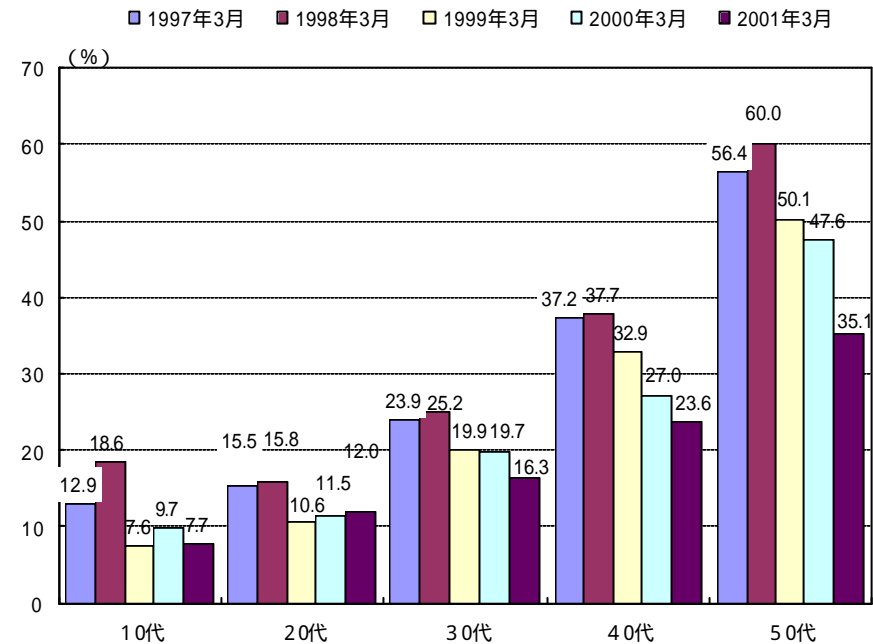
(図表 10) パソコンの使用経験がなく、キーボードもほとんど使えない人の割合は2割に低下
50代でもその割合が1年間に12.5ポイント低下し、35.1%へと大幅減少

- パソコンの使用経験がある人の比率は、この4年間で46.9%から64.6%へ17.7ポイント増大。

【パソコンの使用経験年数と、
キーボードをほとんど使えない人の割合】



【年代別 パソコンの使用経験が無く
キーボードをほとんど使えない人の割合】



Q16. 職場や学校などでの経験を含めて、あなたがパソコンを使い始めてから、どれくらいたちますか。(はひとつ)

F12. あなたは、ワープロやパソコンのキーボードをどれくらい使いこなせますか。(はひとつ)

(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

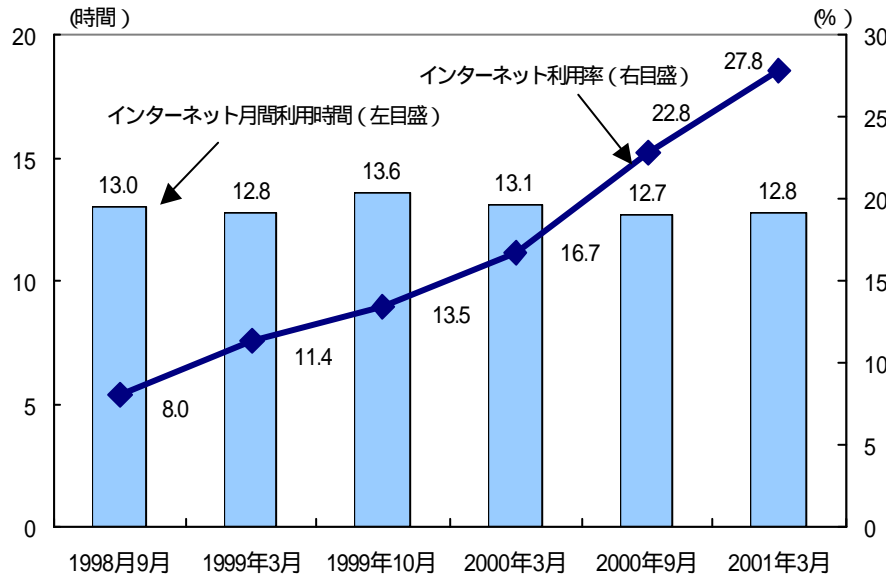
1997年3月～2001年3月 野村総合研究所

(図表 11)生活者の27.8%が自宅でインターネットを利用。半年で5ポイントの順調な拡大
CATVインターネット等の常時接続・定額高速回線を利用している人は、1割を超えた

- ・ 月間の利用時間は13時間程度で、ほぼ一定
- ・ 自宅のパソコンでインターネットを利用している人のうち、CATVインターネットを利用している人は7.4%、フレッツISDN回線を利用している人は3.8%、集合住宅にひかれた高速回線を利用している人は0.5%である(複数回答)。
- ・ 加入電話回線(ダイヤルアップ)や、通常のISDN回線の利用者の割合は減少傾向。

【自宅でのインターネット利用率と月間利用時間の推移】

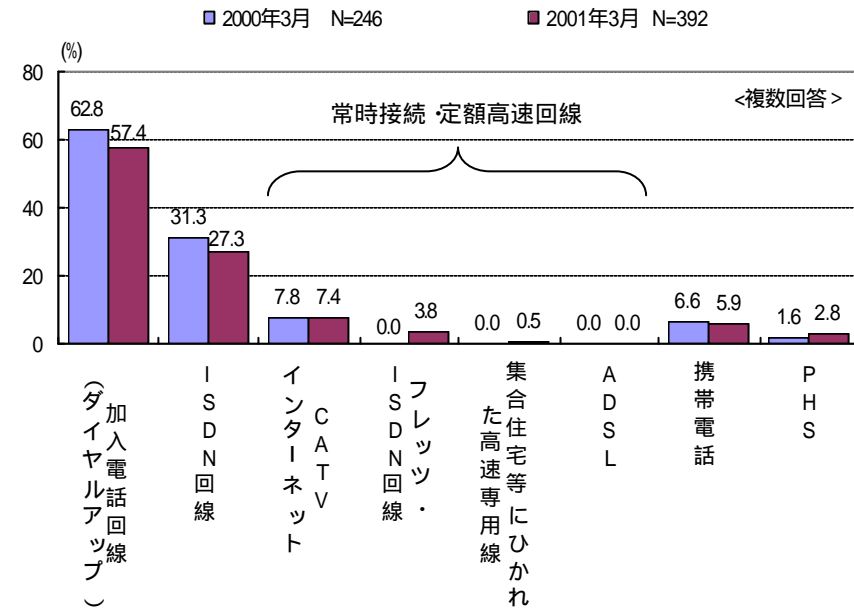
(月間利用時間はインターネット利用者の平均)



Q26. あなたは自宅のパソコンをインターネットにつなげて利用しますか。
Q26SQ1. あなたはどの位ネットワークに接続して利用していますか。

【自宅でのインターネット接続回線】

(自宅でのインターネット利用者100%とする)

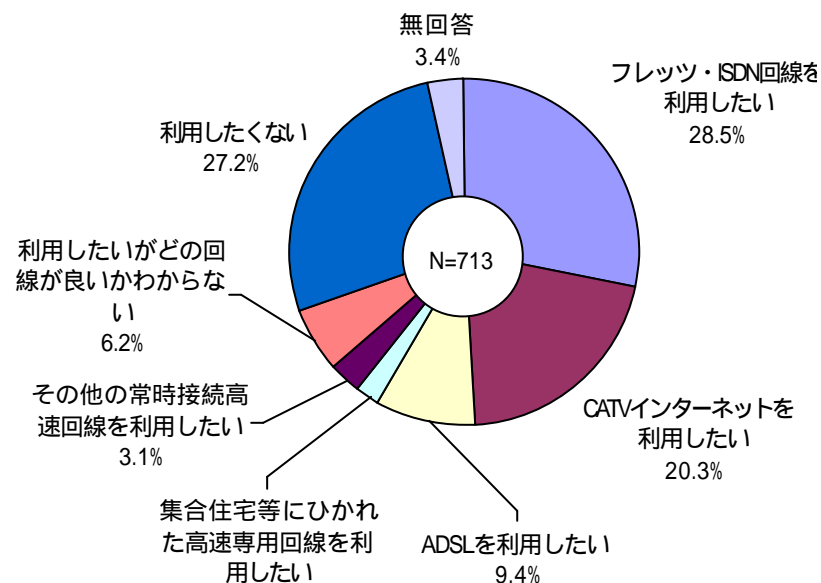


(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート
1998年9月～2001年3月 野村総合研究所

(図表 12) 自宅でインターネットを利用している人および利用したい人の7割が、
常時接続の定額高速回線(ブロードバンド)の利用意向を持つ
サービス開始後6ヶ月以内に利用したいと考えている人は2割

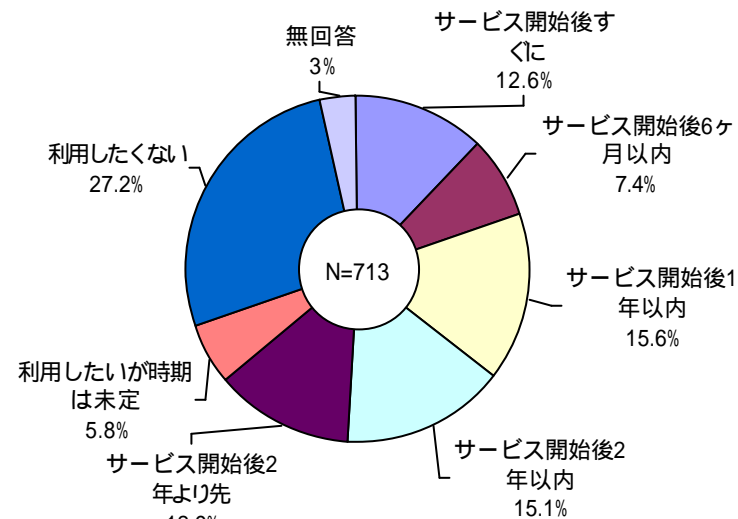
- 利用したい回線の内訳は、「フレッツ・ISDN」(28.5%)が最も多く、次に「CATVインターネット」(20.3%)、「ADSL」(9.4%)の順である。定額高速回線を利用したくないとする回答は、27.2%である。
- フレッツ・ISDN回線は速度的に見て、必ずしもブロードバンドとは呼べないが、常時接続できる点が評価されたと考えられる。
- サービス開始後すぐに利用したい人の割合は12.6%。次いで、「6ヶ月以内」7.4%、「1年以内」15.6%となっている。

【定額高速回線の利用および利用意向】
(自宅でのインターネット利用者・利用希望者を100%とする)



Q20 今後、一定の料金で24時間使い放題になる高速回線を利用したいとお考えですか。(○はひとつ)
Q20SQ1 利用したい高速回線はどれですか。最も利用したい回線をお答えください。(○はひとつ)

【定額高速回線の利用開始時期】
(自宅でのインターネット利用者・利用希望者を100%とする)



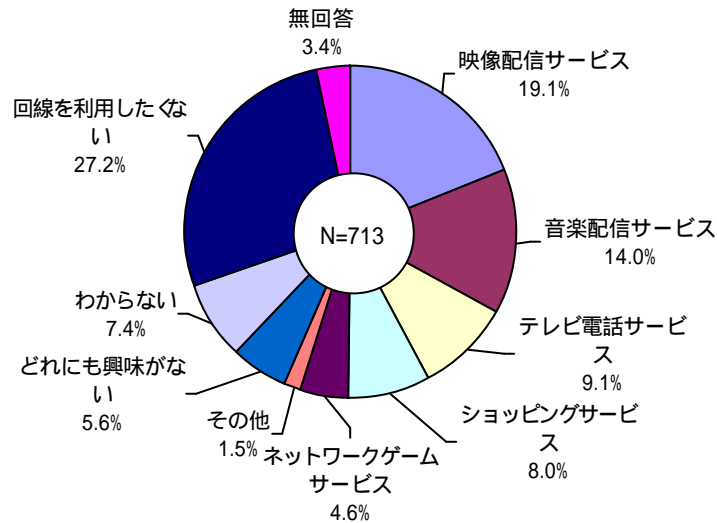
Q20SQ2 いつ頃までに高速回線を利用したいとお考えですか。(○はひとつ)

(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート
2001年3月 野村総合研究所

(図表 13) 定額高速回線で実現するサービスとして、「映像配信サービス」(19.1%)、「音楽配信サービス」(14.0%)、「テレビ電話サービス」(9.1%)への期待が高い
 月々の利用料金は平均 3千 7百円 (ISP 料金を含む)を希望

【定額高速回線利用に当たって最も興味のあるサービス】

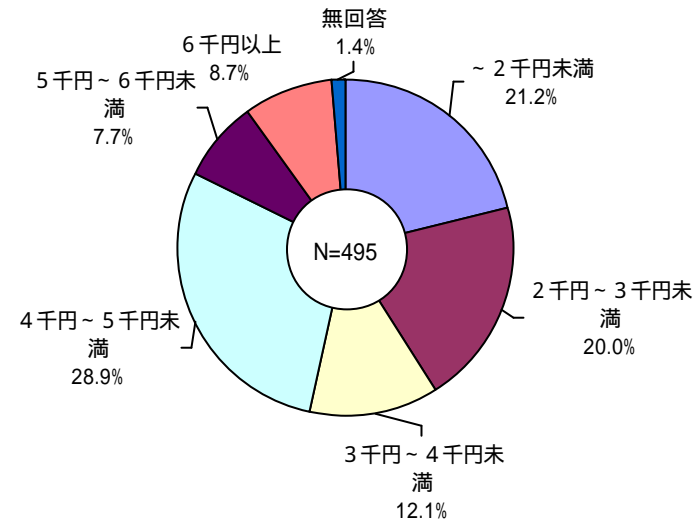
(自宅でのインターネット利用者・利用希望者を100%とする)



Q20SQ4 高速回線の利用により、以下のようなことが容易になります。
 あなたはこれの中でどれが一番興味がありますか。(〇はひとつ)

【定額高速回線サービスに対する支払い希望額】

(定額高速回線利用者・利用希望者を100%とする)



(月々の平均利用料金 3,700円)

Q20SQ3 高速回線でインターネットを利用する料金として、月々いくらくらいならば、支払ってもよいと思いますか。既に利用されている方も、妥当と思われる金額をお答えください。高速回線の月額使用料(通信費)とインターネットサービスプロバイダ(ISP)に支払う料金の合計でお答えください。(〇はひとつ)

(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

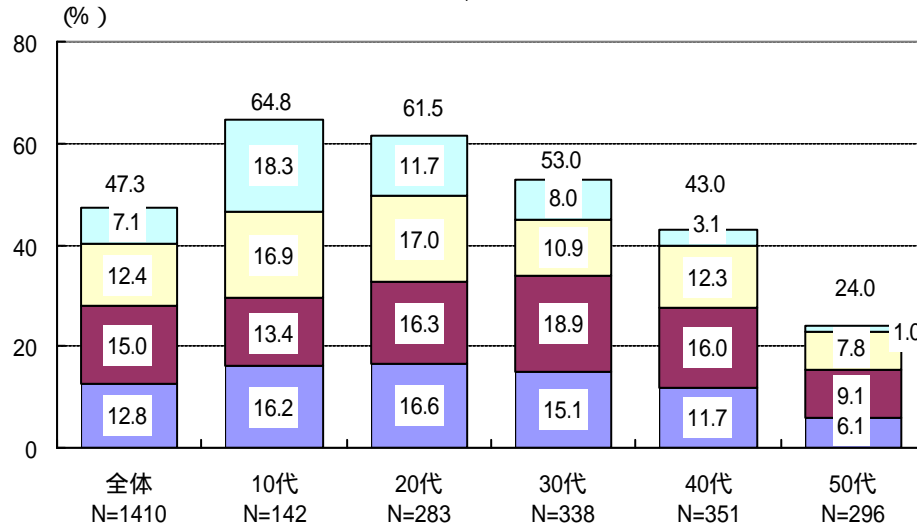
2001年3月 野村総合研究所

(図表 14) 学校・職場や携帯電話・PHSでの利用を含め、生活者の47.3%がインターネットを利用
 利用者の割合は、10代・20代では6割を超え、年代が増すごとに低下傾向

- 10代は携帯電話・PHSのみ(18.3%)、30代では自宅と職場の両方(18.9%)で利用している人の割合が高い。
- 利用手段で見ると、20代が携帯電話とパソコンの両方(28.6%)、30代・40代ではパソコンのみ(それぞれ29.6%、32.5%)でインターネットを利用する人の割合が高い。

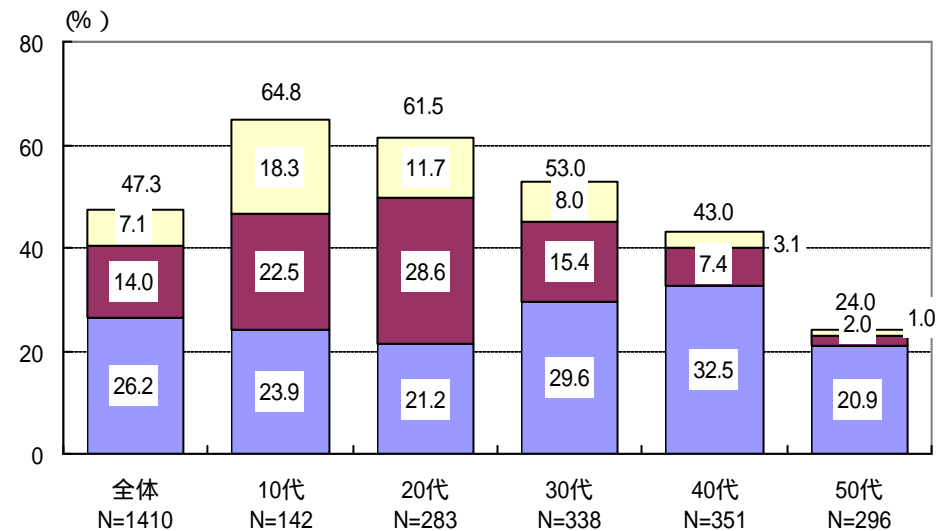
【年代別 インターネット利用場所】

- 携帯電話・PHSのみでインターネットを利用
- 職場・学校でのみインターネットを利用(携帯電話・PHS併用を含む)
- 自宅と職場・学校の両方でインターネットを利用(携帯電話・PHS併用を含む)
- 自宅のみでインターネットを利用(携帯電話・PHS併用を含む)



【年代別 インターネット利用手段】

- 携帯電話・PHSのみでインターネットを利用
- パソコンと携帯電話・PHSの両方でインターネットを利用
- パソコンのみでインターネットを利用



Q9. あなたは、携帯電話単体もしくは、携帯電話・PHSにパソコンや携帯情報通信端末を接続して、インターネット(電子メールやWebコンテンツの閲覧など)を利用していますか。(はひとつ)

Q19. あなたは、お家のパソコンをインターネットにつなげて利用していますか。(はひとつ)

F14. あなたは、職場や学校で、日頃インターネットを利用していますか。(はひとつ)

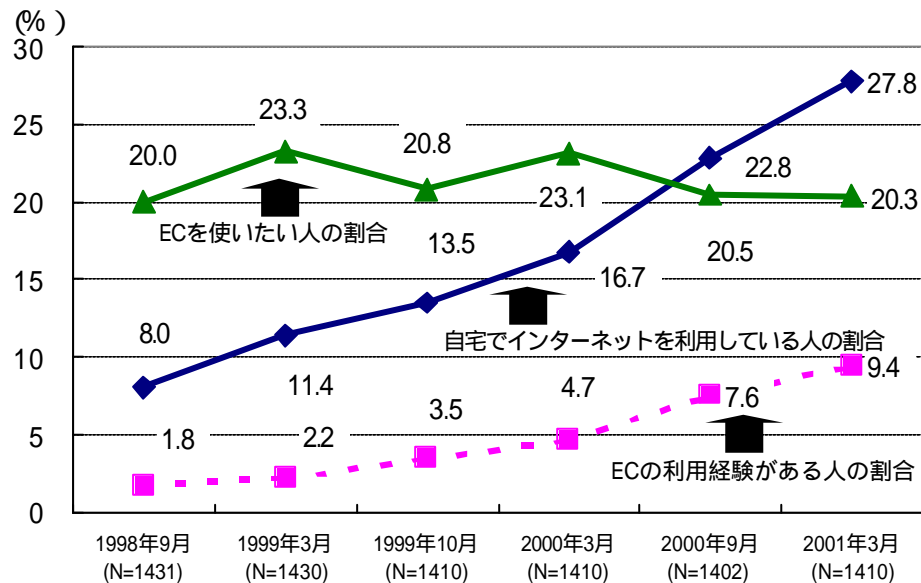
(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

2001年3月 野村総合研究所

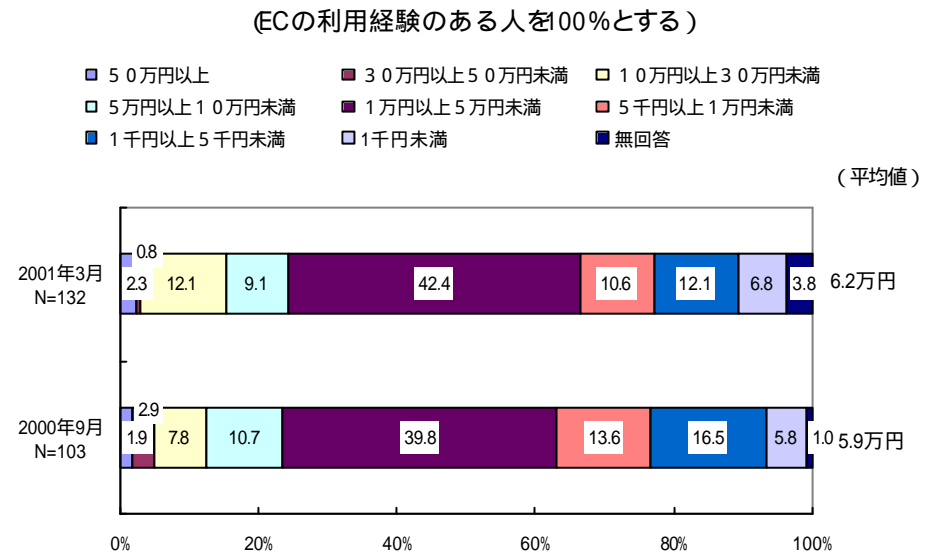
(図表 15) エレクトロニック・コマース (EC :電子商取引) を利用した経験のある人は1割近くに達した
 年間の利用金額は、半年間でやや増加し、平均6.2万円

- ECの利用率は、半年間で1.8ポイント増加し、9.4%になった。
- ECを使いたいと考える人の比率は、20%強でほぼ一定のままである。
- 年間に5千円未満の買い物しかしない利用者は2割程度で、1万円以上5万円未満が4割程度と最も多い。

【ECの利用経験率と利用意向率の推移】



【過去1年間にECで買い物をした金額の推移】



Q23 .最近、パソコン、携帯電話、店頭の情報(キオスク)端末などからインターネットを使って、買い物をしたり各種有料サービスを利用したりできるようになってきています。あなたはこのようなオンラインショッピング(電子商取引/エレクトロニック・コマース)について、どの程度ご存知ですか。

SQ5 .あなたは、オンラインショッピングで、過去1年間にどのくらい商品を購入しましたか。おおよその合計金額をお答えください。

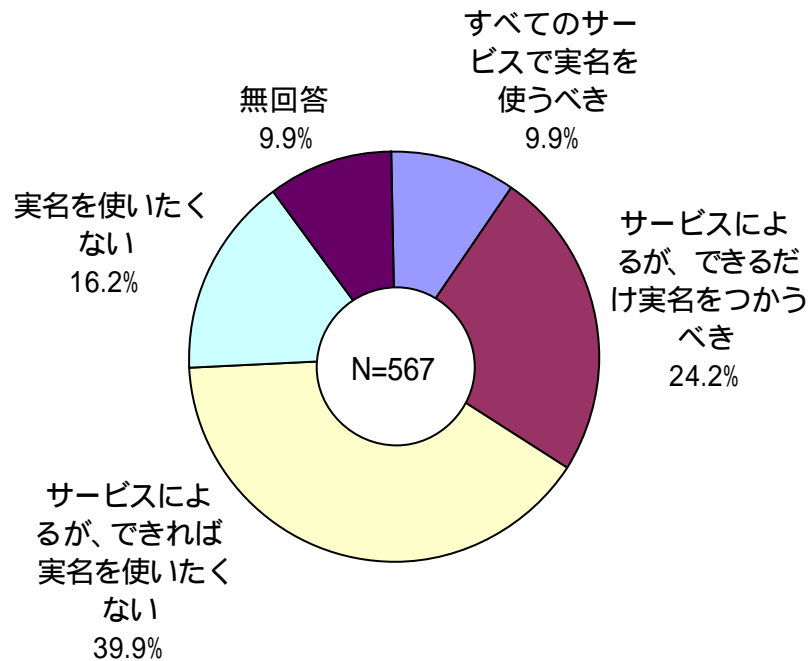
(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

1998年9月～2001年3月 野村総合研究所

(図表 16) インターネットのサービス利用時に実名を使いたくないと考えている人は、インターネット利用者の56.1%
女性や、自宅でのインターネット利用時間が長い人の方が、実名利用に消極的

【インターネットでの実名利用についての考え方】

(自宅のパソコンおよび携帯電話でインターネットを利用している人を100%とする)

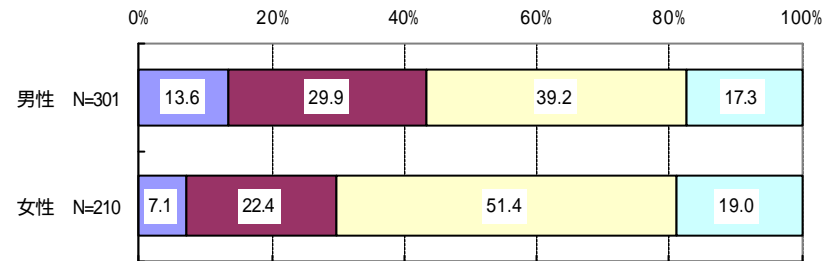


Q40 .インターネットで実名を使うことについて、どう思いますか。(はひとつ)

【男女別 インターネットでの実名利用についての考え方】

(自宅のパソコンおよび携帯電話でインターネットを利用している人を100%とする)

- サービスによるが、できるだけ実名を使うべき
- サービスによるが、できれば実名を使いたくない
- サービスによらず実名を使いたくない
- サービスによらず実名を使いたくない

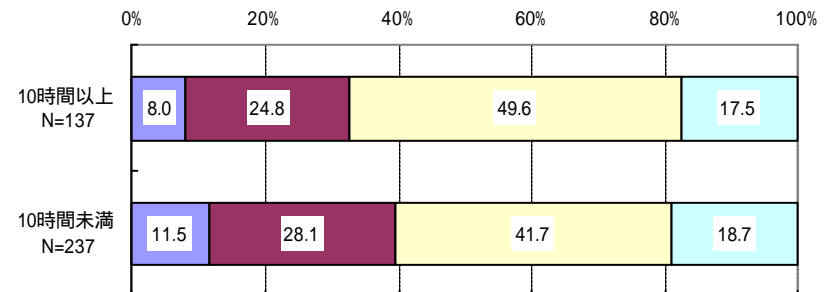


注：インターネットの実名利用について無回答の人を除く

【利用時間別 インターネットでの実名利用についての考え方】

(自宅のパソコンでインターネットを利用している人を100%とする)

- サービスによるが、できるだけ実名を使うべき
- サービスによるが、できれば実名を使いたくない
- サービスによらず実名を使いたくない
- サービスによらず実名を使いたくない



注：インターネットの実名利用について無回答の人を除く

Q40 .インターネットで実名を使うことについて、どう思いますか。(はひとつ)

Q19SQ4. あなたご自身は、どの位自分のパソコンでインターネットを利用されていますか。(はひとつ)

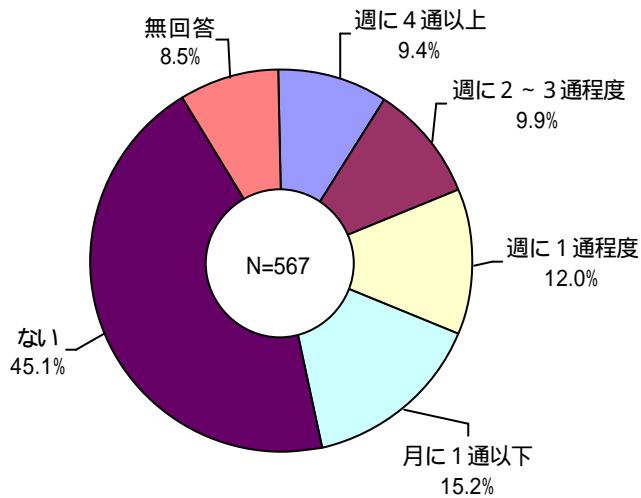
(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

2001年3月 野村総合研究所

(図表 17)知らない相手から電子メールが送られた経験を持つ人の割合は46.5%
このうち「迷惑」と感じている人は66.9%、「最後まで読む」人は22.4%

【知らない会社 個人からの電子メールの受取頻度】

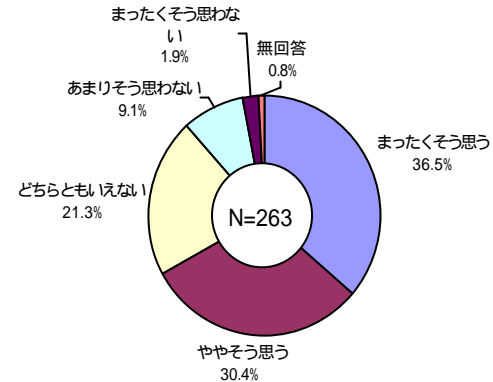
(自宅のパソコンおよび携帯電話でインターネットを利用している人を00%とする)



Q43.3)知らない会社 個人から、電子メールが来ることが、どれ位ありますか。(はひとつ)

【知らない会社 個人からの電子メールを「迷惑」と感ずる人の割合】

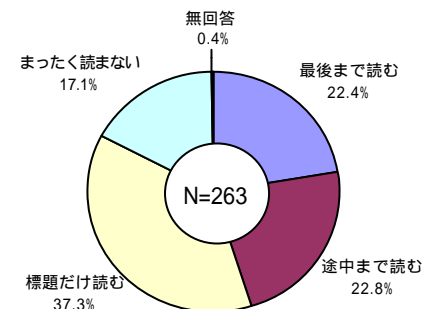
(知らない会社 個人からの電子メールが送られたことがある人を00%とする)



Q43.3) SQ2 そのような電子メールは「迷惑」だとお感じでしょうか。(はひとつ)

【知らない会社 個人からの電子メールへの対応】

(知らない会社 個人からの電子メールが送られたことがある人を00%とする)



Q43.3) SQ1 そのような電子メールは、どうされることが多いですか。(はひとつ)

(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

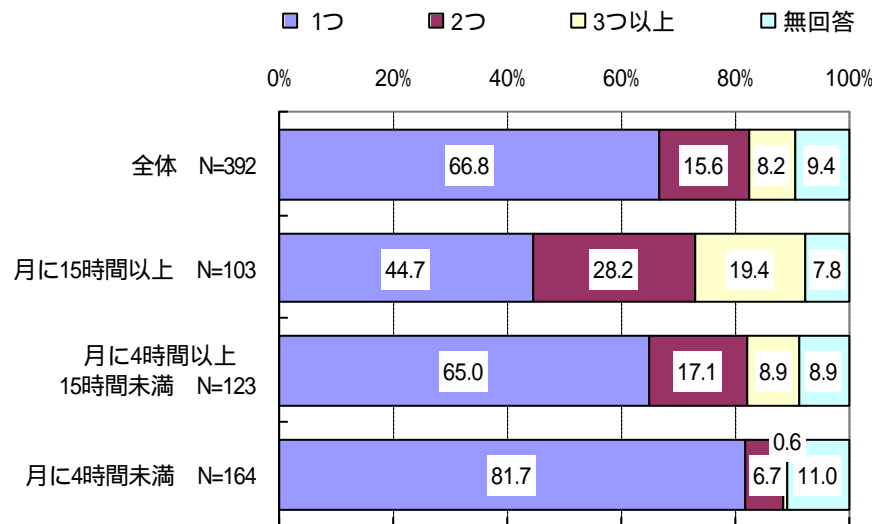
2001年3月 野村総合研究所

(図表 18) 自宅でインターネットを利用している人のうち、23.8%が複数の電子メールアドレスを利用。インターネット利用時間が長い人ほど、複数利用の割合が高い。

「仕事用とプライベート用の使い分け」が、複数のアドレスを持つ最大の理由

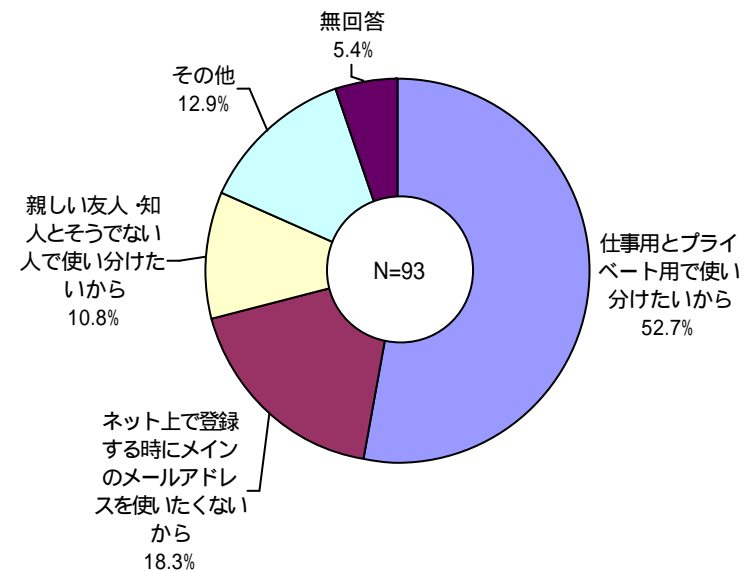
- 電子メールアドレスを1つだけ利用している人の割合は66.8%。以下、2つが15.6%、3つ以上が8.2%の順。
- 複数の電子メールアドレスを利用している理由としては、「仕事用とプライベート用の使い分け」を挙げる人が、52.7%と半数を超える。以下、「ネット上で登録する際にメインのメールアドレスを使いたくない」18.3%、「親しい友人・知人とそうでない人用の使い分け」10.8%の順になっている。

【インターネット利用時間別 電子メールアドレスの利用状況】
(自宅のパソコンでインターネット利用している人を100%とする)



Q41 .現在、あなたは実際に利用している電子メールアドレスを、いくつお持ちですか。
携帯電話のメールアドレスを除いた数でお答えください。(はひとつ)

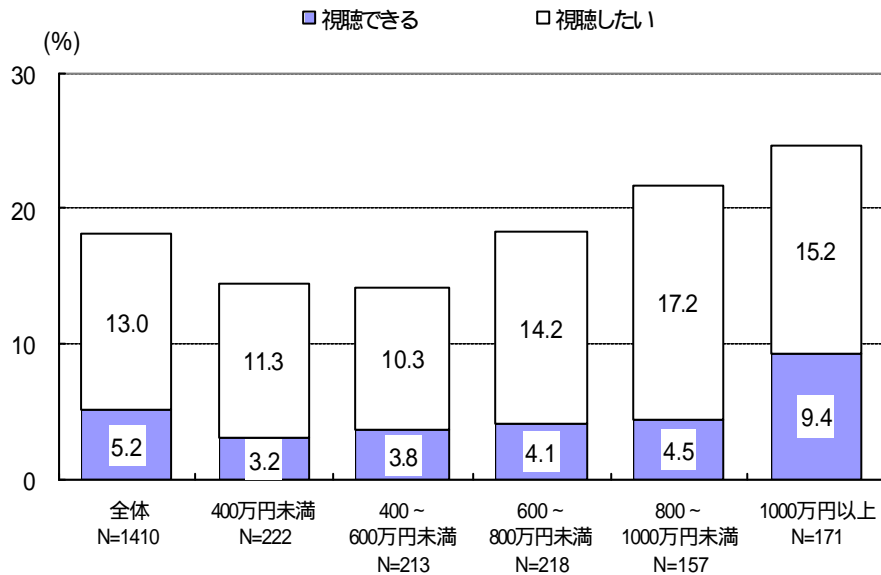
【複数の電子メールアドレスを利用している理由】
(電子メールアドレスを2つ以上保有している人を100%とする)



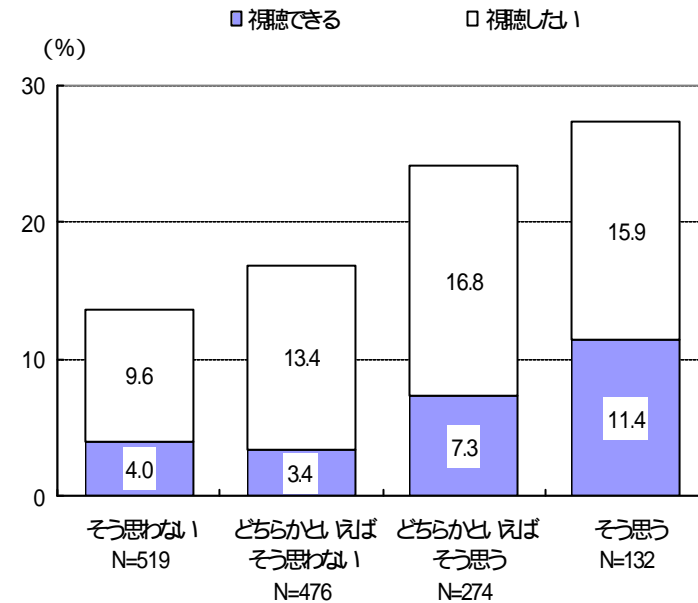
Q41SQ 複数の電子メールアドレスを利用するのはなぜですか。(はひとつ)

(図表 19) BSデジタル放送を視聴できる人の割合は5.2%、視聴したいと考えている人の割合は13.0%
 年収の多い世帯の人や、毎日の生活にインターネットが欠かせないと考えている人ほど、
 BSデジタル放送の視聴意向が高い

【世帯年収別 BSデジタル放送の視聴状況と今後の利用意向】



【毎日の生活にインターネットは欠かせない」という考え方別 BSデジタル放送の視聴状況と今後の利用意向】



Q13 .お宅では、現在どのようなテレビ放送を視聴することができますか。(はいいくつでも)

Q14 .現在お宅で見られるテレビのチャンネル以外で、今後視聴したいものはありますか。最も希望の強いものひとつだけに をつけてください。(はひとつ)

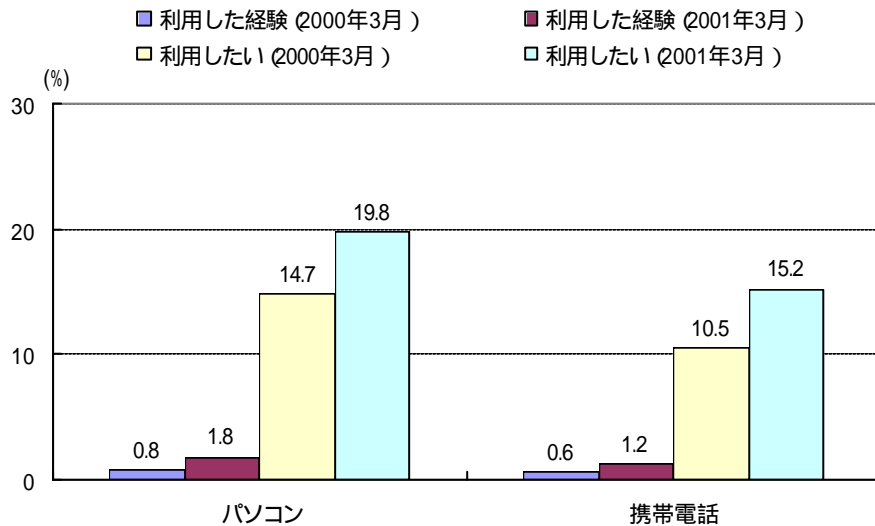
(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート

2001年3月 野村総合研究所

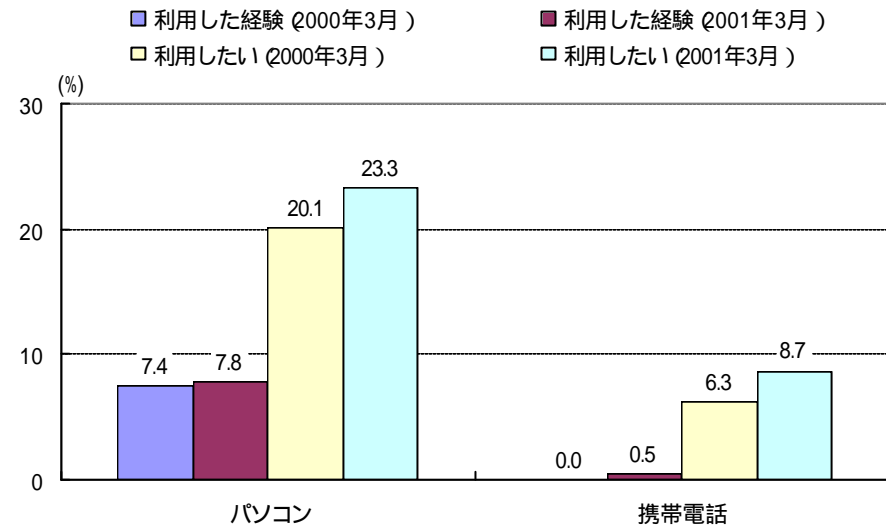
【図表 20】銀行取引や金融商品（株、投資信託等）の売買に、インターネットを利用した経験のある人及び利用意向のある人はともに増加の方向

- 銀行取引では、インターネット取引の利用意向が、パソコンで19.8%、携帯電話で15.2%と順調に増加している。
- 一方、投信・株・債券等の金融商品取引でも、利用意向のある人の割合は順調に増加しているものの、パソコンでの利用意向が23.3%と携帯電話8.7%を、大きく上回っている。

【利用機器別 インターネットを活用した銀行取引の利用と今後の利用意向の推移】



【利用機器別 インターネットを活用した金融商品取引の利用と今後の利用意向の推移】



注：利用した経験のある人の割合のみ、金融商品の取引のある人を100%とする。
N=190 (2000年3月)、N=192 (2001年3月)

Q33. あなたは、銀行（郵便局を含む）のサービスをどのような所・方法で利用されていますか。利用したことがある方法をすべてお知らせください。（はいいくつでも）

Q34. 今後、あなたは、銀行（郵便局を含む）のサービスを、どのような所・方法で利用したいと思われますか。現金の出し入れを伴わないサービス（残高照会、振込み、口座間の資金移動等）だけを利用する場合も含めて、ご希望の所・方法をお知らせください。（はいいくつでも）

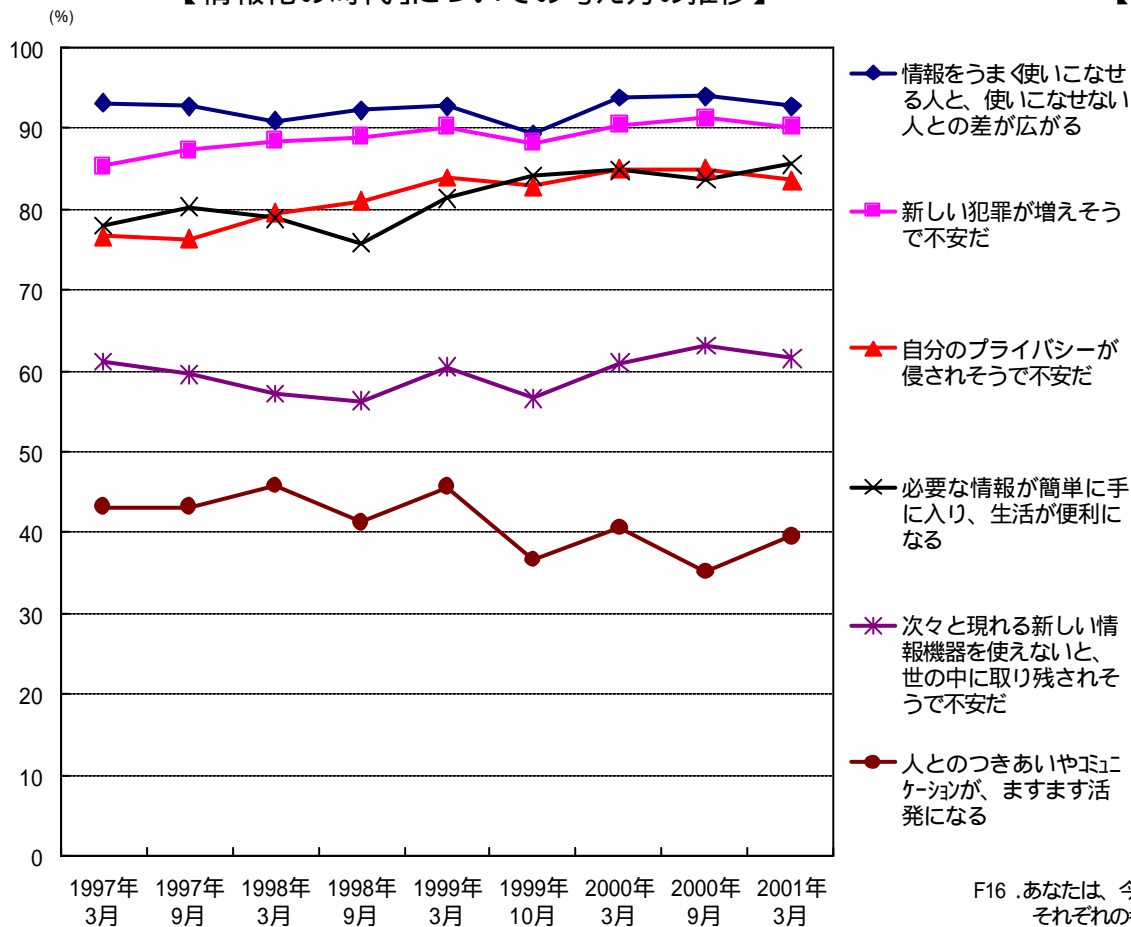
Q36. あなたは、これらの金融商品をどのような所・方法で取引したことがありますか。あなたが取引したことがある所・方法をすべてお知らせください（現在、取引している場合も含めてお知らせください）。（はいいくつでも）

Q38. 今後、あなたが、投資信託、株式、債券等を売買するとしたら、どのような所・方法で売買したいと思いますか。ご希望の所・方法をすべてお知らせください。（はいいくつでも）

（資料）情報機器やサービスの利用に関するアンケート
2001年3月 野村総合研究所

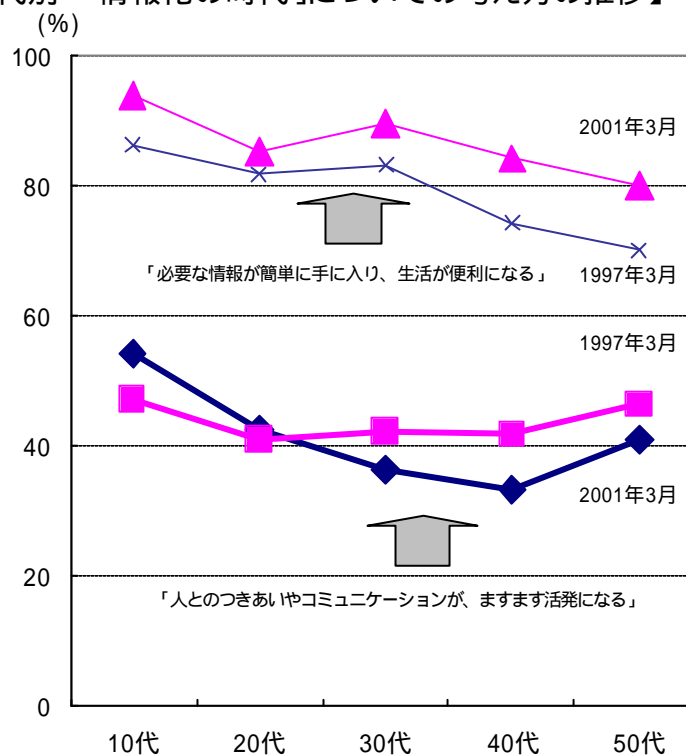
(図表 21) 情報化の進展により「生活が便利になる」と考えている人の割合は、年代を問わず、4年間で増加
 一方、「つきあいやコミュニケーションが活発になる」と考えている人は、10代で増加しつつも、30代以降では低下

【情報化の時代】についての考え方の推移



注：図表の値は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

【年代別】「情報化の時代」についての考え方の推移



注：図表の値は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

F16 .あなたは、今後、世界が向かうと言われる「情報化の時代」について、どのようにお考えですか。それぞれの考えについて、1-4のうち、あてはまるものにつけてください。(はひとつ)

(資料) 情報機器やサービスの利用に関するアンケート
 1997年3月～2001年3月 野村総合研究所